

末松廃寺

七世紀の後半、末松の地に北陸最古級の寺院が創建されます。末松廃寺です。

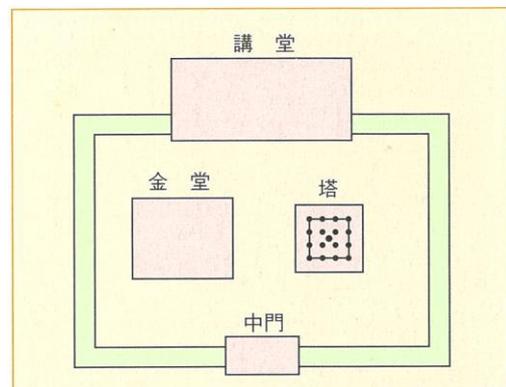
末松廃寺は、塔と金堂が東西に並ぶ法起寺式の伽藍配置で、塔は七重の塔とも推定されます。

末松廃寺の建立者は、在地豪族の道君氏が挙げられていましたが、近年の研究では、南加賀の豪族であった財部氏も大きく関与していたと考えられています。

この頃から活発となる扇状地の開発は、道君氏や財部氏など周辺の豪族が共同で実施したと考えられ、末松廃寺は扇状地開発の象徴的な存在であったと考えられます。



末松廃寺復元模型



法起寺式伽藍配置